

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 19 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370536

研究課題名(和文) 十八世紀青森下北方言を反映するタタリノフ『レキシコン』についての文献方言史的研究

研究課題名(英文) Dialect historical study on Tatarinov "Lexicon" recorded in Aomori Shimokita dialect of the 18th century

研究代表者

江口 泰生 (EGUCHI, Yasuo)

岡山大学・社会文化科学研究科・教授

研究者番号：60203626

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：タタリノフ著『レキシコン』は江戸期の青森下北方言を反映する。成果は以下のとおり。翻字翻訳テキストを完成させた。日本語史、東北方言のなかで位置づけ、注釈的作業から、体系的な研究を行い、日本語史・東北方言に新たな知見を拓いた。

研究実績としては以下。1) 翻字翻訳テキストを完成させ、紀要論文に1～8と公開した。2) 子音の有声化、母音の無声化、ザ行ダ行の混同などの下北方言の音韻的研究を行った。3) 四つ仮名の分析した(江口『国語と国文学』27年9月号)、4) 語中単独母音の鼻音化を明らかにした(ヤヌニ、メンボン、ピンドロなど)。5) 語の意味を明らかにした(カド、ピンズギリ、ヤヌニなど)。

研究成果の概要(英文)：Tatarinov "Lexicon" is the documents reflecting the Aomori Shimokita dialect in the Edo period. The objectives of this research are the following. I translated Tatarinov "Lexicon", translated correctly, organized systematically, and analyzing the language system of this document.

I completed transliteration transliteration. I Published in "Studies in Cultural Symbiotics" (published by Okayama University) as "Lexicon" Notes 1 to 8. In this research clarified the following, voiced vowel, consonant voicing, voiced consonants of Shimokita Dialect in the 18th Century, the confusion of /z/ with /d/, analysis of "Yotsu-gana" (じぢずづ)("Kokugo to Kokubungaku" 27-9), one type of nasalization (i.e., Yanuni, Menbonin, Bindoro), the meaning of the word (i.e., Kado, Bindzugiri, Yanuni).

研究分野：国語学

キーワード：タタリノフ 『レキシコン』 下北方言 母音の無声化 ザダ行の混乱 四つ仮名の合流 単独母音の鼻音化

1. 研究開始当初の背景

本研究は以下のような目的を持つ。A. タタリノフ著『レキシコン』は江戸期の青森下北方言を反映するロシア資料である。この資料の語彙は村山七郎 1965『漂流民の言語』に翻字され、小学館『日本方言大辞典』に用例として採収されていて、重要な資料である。しかし本資料は解読が大変難しいせいもあって、村山 1965 には誤脱や解釈違い、訂正の必要な箇所がある。

2. 研究の目的

本研究の目的の第一は、これを完全な形で翻字翻訳するという事である。第二には、そうすることによって解読が難しい点を個々に処理するのではなく、全体的視点で整理することができる。第三には、この資料に出現する青森方言を分析する。共通語の影響を受けた現代青森方言とは違って、原型的な言語体系を観察することが可能となると思われる。

3. 研究の方法

具体的には以下の具体的作業目標をたてた。第一に『レキシコン』の翻字翻訳テキストを完成させる。第二に『レキシコン』の日本語語彙索引を完成させる。これには対訳のロシア語を添付したいと考えている。対訳ロシア語があることで、日本語の資料性が高まると思われるからである。第三に、日本語史、東北方言のなかで位置づけ、注釈的作業から、体系的な研究を行い、日本語史・東北方言に新たな知見を拓くことである。

4. 研究成果

研究実績としては以下のようなものである。

(1) 翻字翻訳テキストを完成させ、紀要論文などに「注釈」1～8として順次公開した(継続中)。

(2) 子音の有声化、母音の無声化、ザダ行の混同などの下北方言の音韻的研究を行った。

(3) 現代東北方言の一つ仮名状態以前の四つ仮名の分析をおこなった(江口『国語と国文学』27年9月号掲載)。

(4) 語中単独母音の鼻音化を明らかにした(ヤヌニ、メンボニン、ピンドロなど)。

(5) 語彙については「注釈」の中で、解説した(カド～ニシン、ピンズギリ、ヤヌニなど)。

具体的に述べると、子音の有声化はペトロフ説を支持する。後続音が無声子音 + aoe が接続したときに無声化する。後続音の母音の広狭が関与していると考えられる。

母音の無声化は無声子音に挟まれた狭母音が無声化する。これは現代東北方言と共通である。しかし、敬語形式のゴザル、マス、シャルの末尾の母音が脱落する。敬語形式に限られているので、敬語の場合に語末拍の直前が強く発話され、語末母音が弱化している

と思われる。

ザダ行の混同については、従来、奈良～鎌倉時代に生じたとする説もあった。が、それらは語彙的な混同として除外できると思われた。鎌倉時代の用例としてはアザナ～アダナの混同例が挙げられるが、このように意味や語形が似ている二語が混同することと、「サザエ」を「サダエ」というようにまったく新しい語が出現することは別の現象であると考えた。ザダ行の音韻的な混同は後者の発生をもって混同と考えるべき旨を述べた。そしてザダ行の混同は室町時代に生じたと考えた。そしてこれは四つ仮名の混同と同じ事情で生じたものと考えた。

「四つ仮名」の混同については、語頭では破擦音、語中尾では摩擦音で実現していたと結論づけた。これはロシア語では破擦音系統の系統と摩擦音の系統がはっきりと区別されるので、これを根拠にして日本語の「じぢずづ」がどのように表記されているかを調べたところ、語頭が破擦音、語中尾が摩擦音で表記されるという傾向があった。したがって、上記のような結論が得られたものである。

「ヤヌニ」という語はロシア語の「矢石」に相当すると考えた。「矢石」はベレムナイトという化石であって、矢じりのような形をしている。日本語には石炭を「ウニ」という方言があつて、ヤヌニは矢+ウニであり、語中のウが後続のニによって鼻音化したものと考えた。このように 19 世紀下北方言では語中の単独母音が後続音の鼻音によって鼻音化するという現象があつたと考えられる。これによって「メンボニン」が「メイボニン(名簿人)」、「ピンドロ」が「ビイドロ」であるという類例が発見された。

ロシア語も不明であり、訳に用いられた日本語「ピンズギリ」という語も長らく不明であつたが、下北方言にはキセルを「キリ」という方言があり、おそらく「ギヤマン煙管」を「ピンズギリ」(= ガラス煙管)とよんでいたものと想定された。したがって、ロシア語部分も「煙草」関係の道具(たとえば「煙草入れ」「喫煙道具のパイプ」)と判明した。

「噛み煙草」にたいして「カド」という語が宛てられていた。「カド」はおそらく「干しニシン」であり、これをくちやくちやくと噛むところからの発想で翻訳語に用いられたものと思われる。また現代方言では「カド」と「ニシン」が「鱈」の名称として用いられ、「干しニシン」と「生ニシン」の関係は思ったよりも複雑であるが、『レキシコン』の「干しニシン=カド」という体系はちょうど、北海道と東北の中間地点の言語体系であることを明らかにした。

前記の作業目標のうち、第一と第三はかなり進んだと考えている。第二については未だ不明の語彙があるため、もう少し時間がほしいところである。

Tatarinov "Lexicon" is the documents reflecting the Aomori Shimokita dialect in the Edo period. The objectives of this research are the following. I translated Tatarinov "Lexicon", translated correctly, organized systematically, and analyzing the language system of this document.

I completed transliteration transliteration. I Published in "Studies in Cultural Symbiotics" (published by Okayama University) as "Lexicon" Notes 1 to 8. In this research clarified the following, voiced vowel, consonant voicing, voiced consonants of Shimokita Dialect in the 18th Century, the confusion of /z/ with /d/, analysis of "Yotsu-gana" (じぢずづ) ("Kokugo to Kokubungaku" 27-9), one type of nasalization (i.e., Yanuni, Menbonin, Bindoro), the meaning of the word (i.e., Kado, Bindzugiri, Yanuni).

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 11 件)

(1) 平成 28 年 12 月 2016.12 A. タタリノフ『レクシコン』注釈 8 (~) (『岡山大学文学部紀要』66 pp.55~66)、査読なし、江口泰生 (単独)

http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/files/public/5/54799/20170209174831613538/jfl_066_055_066.pdf

(2) 平成 28 年 3 月 2016.3 18 世紀下北方言の母音無声化 - 付: A. タタリノフ『レクシコン』注釈 7 (~) 岡山大学『文化共生学研究』15 pp.39-51)、査読あり、江口泰生 (単独)

http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/files/public/5/54215/20160528124053673898/scs_015_039_051.pdf

(3) 平成 28 年 3 月 2016.3 A. タタリノフ『レクシコン』注釈 6 (~) (『岡山大学文学部紀要』64 pp.49-56)、査読なし、江口泰生 (単独)

http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/files/public/5/54445/20160708144321702/jfl_064_049_056.pdf

(4) 平成 28 年 3 月 2016.3 A. タタリノフ『レクシコン』注釈 5 (~) (『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』41 pp.1-12)、査読なし、江口泰生 (単独)

http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/files/public/5/54196/20160528124015875125/hss_41_001_012.pdf

(5) 平成 27 年 11 月 2015.11 A. タタリノフ『レクシコン』注釈 4 (~) (『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』40 1p ~ 11p)、査読なし、江口泰生 (単独)

<http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/Detail.e?id=5419620160425165711>

(6) 平成 27 年 8 月 2015.8 タタリノフ著『レクシコン』からみた 18 世紀下北佐井方言の四つ仮名 (『国語と国文学』平成二十七年九月号 p50~66)、査読あり、江口泰生 (単独)

(7) 平成 27 年 2015.7 A. タタリノフ『レクシコン』注釈 3 (~) (『岡山大学文学部紀要』63 p49~63)、査読なし、江口泰生 (単独)

http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/files/public/5/53733/2016052812255488602/jfl_063_049_064.pdf

(8) 平成 27 年 2015.3 A. タタリノフ『レクシコン』注釈 2 (~) (『岡大

文論稿』43)P14~P20、査読あり、江口泰生 (単独)

(9)平成26年12月 2014.12 A.タタリノフ『レクシコン』注釈1() (『岡山大学文学部紀要』62 39P~49P、査読なし、江口泰生 (単独))

<http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/metadata/53083>

(10)平成26年7月 2014.7 音韻(史的研究)『日本語の研究』10-3(『国語学』通巻258号)、査読あり、江口泰生 (単独)

(11)平成26年3月 2014.3 ペトロワの『レキシコン』研究について(後)『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』37 p1~11、査読なし、江口泰生 (単独)

<http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/Detail.e?id=5237420140630183600>

〔学会発表〕(計 1 件)

2014.10.17 第317日本近代語研究会(北海道大学文系共同講義棟(軍艦講堂2番教室))
「A.タタリノフ『レクシコン』の語彙と音韻現象」、江口泰生 (単独)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6.研究組織

(1)研究代表者
江口泰生 (EGUHI Yasuo)
岡山大学大学院社会文化科学研究科・教授
研究者番号：60203626

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：

(4)研究協力者 ()